

2011 年度博士学位論文（要旨）

成人アトピー性皮膚炎患者の
ソーシャルサポートと認知に関する健康心理学的研究

桜美林大学大学院 国際学研究科 環太平洋地域文化専攻

神庭 直子

目 次

序	1
第 1 章 研究背景	3
第 1 節 アトピー性皮膚炎の概要	3
第 2 節 成人アトピー性皮膚炎患者の well-being と心理学的支援の必要性	9
第 3 節 成人アトピー性皮膚炎患者の well-being への影響要因	20
第 4 節 well-being への影響要因としてのソーシャルサポート	22
第 5 節 well-being への影響要因としてのアトピー性皮膚炎に対する認知	27
第 2 章 本研究の目的・意義・構成	30
第 1 節 本研究の目的	30
第 2 節 本研究の意義	32
第 3 節 本研究の構成	33
第 4 節 基本的概念と用語の定義	36
第 3 章 成人アトピー性皮膚炎患者の望むソーシャルサポート： サポート源別の構造の検討【研究 1】	39
第 1 節 目的	39
第 2 節 調査 1	40
第 3 節 調査 2	45
第 4 節 総合考察	52
第 4 章 成人アトピー性皮膚炎患者におけるソーシャルサポート尺度の 作成【研究 2】	55
第 1 節 目的	55
第 2 節 方法	56
第 3 節 結果	58
第 4 節 考察	67

第 5 章	成人アトピー性皮膚炎患者におけるアトピー性皮膚炎に対する認知： テキストマイニングによる探索的検討【研究 3】	71
第 1 節	目的	71
第 2 節	方法	72
第 3 節	結果	75
第 4 節	考察	80
第 6 章	成人アトピー性皮膚炎患者におけるアトピー性皮膚炎認知尺度 作成の試み【研究 4】	83
第 1 節	目的	83
第 2 節	方法	84
第 3 節	結果	87
第 4 節	考察	96
第 7 章	アトピー性皮膚炎否定的認知尺度とアトピー性皮膚炎肯定的認知尺度 の作成【研究 5】	102
第 1 節	目的	102
第 2 節	方法	103
第 3 節	結果	106
第 4 節	考察	121
第 8 章	成人アトピー性皮膚炎患者のソーシャルサポートとアトピー性皮膚炎 に対する認知が well-being に及ぼす影響【研究 6】	125
第 1 節	目的	125
第 2 節	方法	128
第 3 節	結果	131
第 4 節	考察	136

第9章 成人アトピー性皮膚炎患者サポートブックレットの 試案作成と評価【研究7】	140
第1節 目的	140
第2節 方法	141
第3節 結果	145
第4節 考察	160
第10章 総合考察	166
第1節 本研究の結果の要約	166
第2節 成人アトピー性皮膚炎患者のソーシャルサポートについて	169
第3節 成人アトピー性皮膚炎のアトピー性皮膚炎に対する認知について	173
第4節 成人アトピー性皮膚炎患者の well-being に関するモデルについて	177
第5節 成人アトピー性皮膚炎患者サポートブックレットの試案と 本研究の応用可能性について	179
第6節 本研究の限界と今後の展望	181
第7節 結論	182
引用文献	183

謝 辞

APPENDIX

要 旨

序

近年、アレルギー様症状に悩まされる人の増加が注目されている。アレルギー様症状やアレルギー疾患は、我々を取り巻く環境や生活習慣などの変化から影響を受けるとともに、我々の日常生活にも影響を及ぼすものであり、社会的関心の高い問題となっている。本研究で対象とするアトピー性皮膚炎（Atopic Dermatitis；以下、AD と略す）は、そのようなアレルギー疾患のひとつとされる。以前は小児の患者が中心であったが、近年では成人患者の増加・難治化が指摘されている。アレルギー疾患は慢性的な疾患であり、完全な治癒を目指すというよりは日常的にコントロールしていくことが重要といえる。また、慢性疾患の身体的苦痛とともに、AD の及ぼす心理・社会的影響にも目が向けられるようになり、患者の主観的評価にも着目する必要性が指摘されている。加えて、日常的な周囲の人々の行動や周囲の人々との関係も、患者が慢性疾患と付き合いしていく上で重要であると考えられる。本研究では、成人 AD 患者を対象に、患者の生活者としての側面も含めて well-being を捉える。また、患者の well-being に影響を及ぼす要因として、患者自身が AD のことをどのように捉えているかという認知と、周囲の人々からのソーシャルサポートを中心とした検討を行う。成人 AD 患者の AD に対する認知と、AD 患者におけるソーシャルサポートに関する研究はまだ緒についたばかりであり、これらの観点から患者の主観を理解することは患者支援の第一歩として意義があると考えられる。また、成人 AD 患者の well-being に対して、AD に対する認知やソーシャルサポートがどのような影響を及ぼしているかを明らかにすることは、新たな支援方法の模索に寄与できるものと考えられる。AD は我々にとって身近な疾患になりつつあるが、本研究によって得られた知見は、患者自身や周囲の人々の対処方法に、新たな観点を提供することが可能となると考えられる。

第1章 研究背景

日本皮膚科学会によると、AD は、「増悪・寛解を繰り返す、搔痒のある湿疹を主病変とする疾患であり、患者の多くはアトピー素因を持つ」と定義される（日本皮膚科学会, 1994）。AD の治療は、AD の診断および重症度の評価がなされた後、個々の患者において発症・悪化因子の検索と対策、皮膚機能異常を補正するためのスキンケア、薬物療法を組み合わせで行われる（河野・山本（監）, 2008）。我が国における AD の推計総患者数は、349,000

人である（厚生労働省，2009）。また，2大学の大学職員を対象とした調査では，ADの有病率は，20歳代9.4%，30歳代8.3%，40歳代5.7%，50歳代と60歳代の合計で2.5%であり，全体の平均は6.3%であったという報告もある（富板・河野，2008）。

成人AD患者は，症状による身体的苦痛に加えて心理・社会的な問題が存在すると指摘されている。複数の質的研究および量的研究から，成人AD患者のwell-beingの低下が報告されている。このような状況に対し，心理学的支援の必要性が指摘され，効果的な患者支援を行うための基礎的研究や介入効果の検討が実証的に行われている。心理学的支援は，症状の改善やADによって被る心理社会的苦痛を低減させる可能性が期待できるものであり，今後ますます，患者支援に関する基礎的研究や介入実践の知見の蓄積が重要であると考えられる。そこで本研究では，成人AD患者のwell-beingへの影響要因に関する先行研究を概観した上で，成人患者におけるソーシャルサポートとADに対する認知について検討を行うこととした。

本研究で対象とする成人AD患者におけるソーシャルサポートについては，まだ研究数が少ないものの，いくつかの研究で，well-beingとの関連の検討が試みられてきた。

先行研究を概観した結果，成人AD患者のソーシャルサポートに関する検討課題として，第一に，成人AD患者独自のソーシャルサポートの内容について検討する必要性があげられる。従来から，サポート機能のメカニズムを説明する理論のひとつとしてマッチング・モデルがあり，一定のニーズと適合するサポートがあれば，そのサポートが効力を発揮すると指摘されている（稲葉，1998）。また，近年，ソーシャルサポートのネガティブな効果にも着目がなされている（菊島，2003）。患者の望むサポートの検討は，ありがた迷惑なサポートを回避し，患者をいかにサポートすればよいかという問題にひとつの知見を提供することができると考えられ，急務である。第二に，ソーシャルサポートの測定次元の問題についてである。成人AD患者における先行研究から，知覚サポートの効果を改めて検討するため，本研究でも知覚サポートの測定を行いたいと考える。加えて，複数の側面からソーシャルサポートを測定し，その差異や関連の検討も行われるようになっている。複数の次元からソーシャルサポートを検討することによって，サポート効果について新たな知見が加えられ，また，本疾患患者のソーシャルサポートの特徴についての理解も深めることができると考えられる。第三に，サポート源の問題である。先述のとおり，同一内容のサポートであっても，その提供者の違いによってサポートの受け手に与える影響が異なることが示されている（福岡，1992）。また，Dakof & Taylor（1990）は，がん患者におけ

るソーシャルサポートの有益性をサポートの受け手の視点から検討し、サポートの送り手が誰であるのかによって、有益であるとみなされるサポートと有益でないと思なされるサポートが大きく異なることを示した。この結果からは、サポート内容とサポート源の交互作用が推察される。患者の現状把握という観点からも、ソーシャルサポート研究の理論の観点からも重要であると考えられる。

成人 AD 患者の AD に対する認知を検討した研究は、現在のところそれほど多くないが、成人 AD 患者が AD をどのように捉えているか検討した研究を概観した。

その結果、第一に、成人 AD 患者を対象とした AD に対する認知の研究は、まだ研究数そのものも少なく、知見の蓄積が必要であると考えられた。また、現在のところ知見は少ないものの、質的研究および病気認知を測定する尺度である IPQ-R を用いた研究結果から、患者が AD をいかに捉えているかということが、患者の well-being に影響を及ぼしている可能性が示唆される。第二に、測定尺度の問題である。すべての疾患に共通して使用することを目的として作成されている IPQ-R を用いた検討は既に行われているが、成人 AD 患者には、本疾患の特徴に起因する特異的な認知が存在するものと推測される。しかし、成人 AD 患者を対象に、AD に対する認知の項目の作成から行われた研究は、現在のところみあたらない。そこで、成人 AD 患者における AD に対する認知の様相を明らかにし、その影響を検討することは、意義があると考えられる。

第 2 章 本研究の目的・意義・構成

本研究では成人 AD 患者の well-being に対する影響要因としてソーシャルサポートおよび AD に対する認知に着目し、これらの要因の現状把握や影響関係の検討を行い、患者支援の基礎となる知見を得ることを目的とする。さらに、その結果に基づいた支援案の試作と評価を行う。本研究の意義は、以下のとおりに整理される。1) 本疾患患者特有のソーシャルサポートについて、患者に望まれているサポートおよび知覚サポートといった多角的観点から理解を深めることが可能になる。2) 本疾患患者のアトピー性皮膚炎に対する認知を具体的に測定することが可能となり、成人 AD 患者に特徴的な認知を把握し理解するための一助となる。3) これまで同時に扱われてこなかった、AD の症状、ソーシャルサポート、AD に対する認知、well-being といった変数の関連性を検討することで、患者の well-being に影響を及ぼす要因について総合的に理解を深めることができる。またこのような検討によって、患者の well-being 向上のために効果的な支援のあり方について示唆を

得ることができる。4) 本研究結果にもとづく支援方法の試案を作成・評価することにより、実証的研究によって得られた知見の応用可能性を検討することができる。また、成人 AD 患者におけるソーシャルサポートおよび AD に対する認知の双方を含む患者支援は、これまでに試みられていない方法であり、患者支援の新たな可能性に関する知見を提供することができる。

第 3 章 成人アトピー性皮膚炎患者の望むソーシャルサポート：

サポート源別の構造の検討【研究 1】

第 3 章では研究 1 として、成人 AD 患者の望むソーシャルサポートという観点から、自由記述による質的調査およびその結果にもとづく量的調査を行った。自由記述調査の結果、患者が有益であるとみなす行動の行為者には家族が多く挙げられ、家族が主要なサポート源となっていることが示された。また、患者に対する受容的な行動は有益であると解釈される場合が多く、一方、患者に対する過剰な関わりは不適切であるとみなされる可能性が高いことが示された。AD に関する情報提供などのように、同じ行動でもポジティブに解釈される場合とネガティブに解釈される場合もみられ、そのサポートの送り手がサポートの有益性の評価に影響を及ぼしている可能性が示唆された。さらに、「家族」、「友人・知人」、「医師」のサポート源別に同一の項目を用い、患者に望まれるソーシャルサポートの構造の検討を行った。その結果、サポート源によって因子構造や因子に負荷する項目が異なることが確認された。また、「家族」と「友人・知人」には、先行研究ではソーシャルサポートの種類としては提案されてこなかった「静観」という因子が確認された。

第 4 章 成人アトピー性皮膚炎患者におけるソーシャルサポート尺度の作成【研究 2】

第 4 章では研究 2 として、研究 1 でサポート源によって望まれるサポートの構造が異なる可能性が示されたことから、家族と友人・知人に共通の項目を用い、成人 AD 患者に望まれるサポートについて再度、確認を行った。その結果、希求サポートは、両サポート源とも 3 因子構造であることと、各因子に負荷する項目は異なることが示された。一方、知覚サポートは、両サポート源とも 1 因子構造であると判断された。そこで、家族と友人・知人に共通の項目から構成され、1 因子 5 項目で簡便に知覚サポートを測定可能な尺度の作成を行った。尺度はそれぞれ、成人アトピー性皮膚炎患者家族サポート尺度 (Family Support Scale for Adult Atopic Dermatitis Patient; FaSS-AD) および成人アトピー性皮膚

炎患者友人・知人サポート尺度 (Friend Support Scale for Adult Atopic Dermatitis Patient; FrSS-AD) と命名された。本尺度は、内的整合性による信頼性、内容的妥当性および併存的妥当性、利用可能性を備えていることが確認された。

第 5 章 成人アトピー性皮膚炎患者におけるアトピー性皮膚炎に対する認知：

テキストマイニングによる探索的検討【研究 3】

第 5 章では研究 3 として、成人 AD 患者特有の AD に対する認知の様相を探索的に検討するために、インタビュー調査および自由記述調査を行った。得られたテキストデータは、テキストマイニングの手法により分析を行った。テキストデータの分かち書き、コレスポンドンス分析、クラスター分析といった一連の分析の結果、成人 AD 患者の AD に対する認知の 8 側面が見出された。

第 6 章 成人アトピー性皮膚炎患者におけるアトピー性皮膚炎認知尺度作成の試み

【研究 4】

第 6 章では研究 4 として、研究 3 の結果にもとづき、アトピー性皮膚炎認知尺度の作成を試みた。その結果、6 因子構造が確認された。6 因子のうち、3 因子は第 5 章のクラスターの内容とほぼ一致するものであった。また、本研究で確認された因子と皮膚疾患特異的 QOL 尺度である DLQI との相関を検討した。その結果、6 下位尺度中 3 下位尺度と有意な正の相関がみられ、これらの下位尺度は AD に対するネガティブな認知を表しているものと考えられた。さらに、成人 AD 患者と AD ではない統制群との量的比較を行い、患者群の認知の特徴を検討した結果、1 下位尺度を除き、患者群のほうが得点が高いことが示された。

第 7 章 アトピー性皮膚炎否定的認知尺度とアトピー性皮膚炎肯定的認知尺度の作成

【研究 5】

第 7 章では研究 5 として、研究 4 で得られた結果を参考に、肯定的認知に関する項目数を追加するなどの改良を加え、AD に対する認知を測定可能な尺度の作成を行った。作成された尺度はアトピー性皮膚炎否定的認知尺度 (Negative Cognition Scale for Atopic Dermatitis; NCS-AD) およびアトピー性皮膚炎肯定的認知尺度 (Positive Cognition Scale for Atopic Dermatitis; PCS-AD) と命名された。NCS-AD は、「生活上の不便さ」、「皮膚に

に対する嫌悪感」,「遺伝に対する懸念」の3因子から構成された。PCS-ADは,「健康のバロメーター」,「人への感謝」,「自己成長」の3因子から構成された。両尺度は,内的整合性による信頼性および因子的妥当性が確認された。また,両尺度は基本的に独立であることや,一部の否定的認知は罹病期間や現在の痒みの程度と関連があること,肯定的認知は診断年齢と関連がある可能性が示唆された。

第8章 成人アトピー性皮膚炎患者のソーシャルサポートと アトピー性皮膚炎に対する認知がwell-beingに及ぼす影響【研究6】

第8章では研究6として,研究2と研究5で作成した尺度を用いて,ADに関するソーシャルサポートとADに対する認知が患者のwell-beingに及ぼす影響の検討を行った。well-beingは皮膚疾患特異的QOLおよび自己肯定意識(対自己領域,対他者領域)で測定した。また,モデルには主観的指標による症状の変数も含めた。

分析の結果,1) ソーシャルサポートは自己肯定意識(対他者領域)に直接的に影響を及ぼし自己肯定感を高めること,2) ソーシャルサポートはADに対する肯定的認知を高めること,3) ADに対する肯定的認知はソーシャルサポートから影響を受け,自己肯定意識(対自己領域)を高めること,4) ADに対する否定的認知は,ADの症状から影響を受けていること,5) ADに対する否定的認知は皮膚疾患特異的QOLを媒介して自己肯定意識(対自己領域)を低めること,6) ADに対する否定的認知は自己肯定意識(対他者領域)に直接的に影響を及ぼし自己肯定意識を低めること,などが明らかにされた。

第9章 成人アトピー性皮膚炎患者サポートブックレットの試案作成と評価【研究7】

第9章では研究7として,研究6の結果にもとづきADに対する肯定的認知とソーシャルサポートに焦点を絞り,患者支援のためのブックレットの試案作成を行った。さらにブックレットの試案に対して,成人AD患者や患者の周囲の人々による評価を求めた。調査対象者にはブックレットの意図が概ね理解され,今後の期待も含め有益であるとの評価がなされた。受動的に読むだけでなく読者が自ら考えることで気づきを促し,認知やサポートの効果を実感できる点について,肯定的な評価が得られた。また,調査対象者からの指摘により,今後の改善点や,サポートの送り手を対象としたブックレットの作成といった新たな支援の方向性について示唆を得た。

第10章 総合考察

本研究は成人 AD 患者の well-being 向上に寄与するための基礎研究という位置づけで、成人 AD 患者のソーシャルサポートおよび AD に対する認知の現状把握やおよびそれらの影響関係について検討を行った。

ソーシャルサポートについては望まれるサポートおよび知覚サポートといった複数の次元から検討を行った。その結果、患者の望むサポートや知覚サポートの特徴について、新たな知見を得ることができた。このことは患者の理解につながり、患者をサポートしたいと願う患者の周囲の人々に対してひとつの知見を提供するものでもあると考えられる。AD に対する認知についても、質的調査による探索的検討から尺度作成を行った。その結果、AD に対する認知には否定的認知と肯定的認知が存在し、それぞれは独立して異なる機能を果たしていることが示された。

さらに、ソーシャルサポートと AD に対する認知を含むモデルによって、患者の well-being に影響を及ぼす要因を明らかにすることができた。モデルの検証の結果、AD に関するソーシャルサポートの知覚は、成人 AD 患者が他者との関係性における自己肯定意識を高める要因であり、基本的にはポジティブな要因であるといえる。また、ソーシャルサポートの知覚は、AD に対する肯定的認知を介して対自己領域の自己肯定意識に影響を及ぼすことが示された。このことからソーシャルサポートという資源を有していることは、AD を肯定的側面から捉えることのできる心理的余裕につながっていくことが示唆される。AD に対する否定的認知については、AD の症状と well-being との関連を媒介する機能を果たすことが示された。また、AD に対する肯定的認知が well-being に及ぼすポジティブな効果が示された。AD であることは一種の慢性的ストレス状況でもあるが、そこに肯定的意味を見出すことは、自己肯定意識を高めることが示唆される。

成人 AD 患者サポートブックレットの試案については、改善点およびさらなる応用可能性について言及した。

最後に、本研究の限界および一般化可能性の範囲として、1) AD の重症度について客観的指標を用いた測定が行われていないこと、2) 調査対象者は AD を可能な範囲でコントロールし日常生活を送っている成人 AD 患者であること、3) ブックレットの効果についての検討の必要性について言及し、今後の展望について述べた。

主要な引用文献

- 相原道子・針谷毅・市川秀之・池澤善郎 (2000). 心理状態の変化に伴って皮疹の著しい変化をみたアトピー性皮膚炎患者の1例 アレルギー, **49**, 487-494.
- 阿南貞雄 (2003). アトピー性皮膚炎 山口真紀・安達祥子・青木裕美 (編) SELECTED ARTICLES 2003 医療情報科学研究所 pp.867-887.
- Ando, T., Hashiro, M., Noda, K., Adachi, J., Hosoya, R., Kamide, R., Ishikawa, T., and Komaki, G. (2006). Development and validation of the psychosomatic scale for atopic dermatitis in adults. *Journal of Dermatology*, **33**, 439-450.
- Bolger, N & Amarel, D. (2007). Effects of social support visibility on adjustment to stress: Experimental evidence. *Journal of Personality and Social Psychology*, **92**, 458-475.
- Bowling, A. (2005). Measuring health: A review of quality of life measurement scales. 3rd ed. Berkshire: Open University Press.
- Caplan, G. (1974). *Support systems and community mental health*. New York: Behavioral Publications.
- Cassel, J. (1974). Psychosocial Processes and "Stress": Theoretical Formulation. *International Journal of Health Services*, **4**, 471-482.
- Cobb, S. (1976). Social support as a moderator of life stress. *Psychosomatic Medicine*, **38**, 300-314.
- Cohen, S., Underwood, L. G. & Gottlieb, B. H. (Eds.) (2000). *Social support measurement and intervention: A guide for health and social scientists*. New York: Oxford University Press.
- (小杉正太郎・島津美由紀・大塚泰正・鈴木綾子 (監訳) (2005). ソーシャルサポートの測定と介入 川島書店)
- Dakof, G. A., & Taylor, S. E.. (1990) . Victims' perceptions of social support: what is helpful from whom? *Journal of Personality and Social Psychology*, **58**, 80-89.
- Ehlers, A., Stangier, U., & Gieler, U. (1995). Treatment of atopic dermatitis: a comparison of psychological and dermatological approaches to relapse prevention. *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, **63**, 624-635.

- Evers, A. W. M., Lu, Y., Duller, P., Valk, P. G. M. van der, Kraaiaam, F. W., Kerkhof, P. C. M. van de (2005). Common burden of chronic skin diseases? Contributors to psychological distress in adults with psoriasis and atopic dermatitis. *British Journal of Dermatology*, **152**, 1275-1281.
- Feeney, B. C. (2004). A secure base: Responsive support of goal strivings and exploration in adult intimate relationships. *Journal of Personality and Social Psychology*, **87**, 631-648.
- Fortune, D. G., Richards, H. L., Kirby, B., McElhone, K., Main, C.J., & Griffiths, C. E. M. (2004). Successful treatment of psoriasis improves psoriasis-specific but not more general aspects of patients' well-being. *British Journal of Dermatology*, **151**, 1219-1226.
- 藤原由子・片岡葉子 (2007). アトピー性皮膚炎と QOL 臨床看護, **33**, 1835-1839.
- 福原俊一 (編) (2004). 皮膚疾患の QOL 評価 DLQI, Skindex29 日本語版マニュアル 照林社
- 福岡欣治・橋本幸 (1992). 個人のもつ特定のサポート源に関するソーシャルサポートの測定 健康心理学研究, **5** (2), 32-39.
- 福録恵子・長野拓三・荻野敏 (2002). アトピー性皮膚炎患者における QOL—— SF-36 を用いて—— アレルギー, **51**, 1159-1169.
- 古江増隆・佐伯秀久・古川福実・秀道広・大槻マミ太郎・片山一朗・佐々木りか子・須藤一・竹原和彦 (2009). アトピー性皮膚炎診療ガイドライン 日本皮膚科学会誌, **119**, 1515—1534.
- Gupta, M. A., Gupta, A. K., Schork, N. J., and Ellis, C. N. (1994). Depression Modulates Pruritus Perception: A Study of Pruritus in Psoriasis, Atopic Dermatitis, and Chronic Idiopathic Urticaria. *Psychosomatic Medicine*, **56**, 36-40.
- 浜治世 (1984). 痒みの生理心理学的研究 人文学 (同志社大学人文学会), **140**, 83-110.
- 浜治世・三根久代 (1996). 痒みに関する実験心理学的および臨床心理学的研究 日本心理学会
- 針谷毅・平尾哲二・勝山雅子・市川秀之・相原道子・池澤善郎 (2000). アトピー性皮膚炎患者における心身の状態と皮膚症状の関連性について アレルギー, **49**, 463-471.
- 橋本幸 (私信). サポート・エチケットに関する質問紙 (2003年9月)

- 羽白誠 (2001a). 皮膚科患者の職場・学校不適応質問紙の検討——第1報—— 心身医学, **41** (抄録集), 73.
- 羽白誠 (2001b). アトピー性皮膚炎患者の職場・学校不適応 ストレスと臨床, **10**, 24-27.
- 羽鳥健司・小玉正博 (2009). 我々は困難な状況でどう成長するのか——困難体験に対する肯定的意味づけの視点から—— ヒューマン・ケア研究, **10**, 101-113.
- 檜垣祐子 (2007). 成人のアトピー性皮膚炎患者における quality of life と皮膚ボディーイメージとの関係について 東京女子医科大学雑誌, **77**, 274.
- 檜垣祐子 (2010). アトピー性皮膚炎 アレルギー, **59**, 82-90.
- 樋町美華・岡島義・大澤香織・羽白誠・坂野雄二 (2010). 痒みに対する不安が搔破行動を介して健康関連 QOL に及ぼす影響——健常学生と成人型アトピー性皮膚炎患者の比較—— 心身医学, **50**, 387-395.
- 平石賢二 (1990). 青年期における自己意識の発達に関する研究 (I) ——自己肯定性次元と自己安定性次元の検討—— 名古屋大学教育学部紀要 教育心理学科, **37**, 261-262.
- 平石賢二 (1993). 青年期における自己意識の発達に関する研究 (II) ——重要な他者からの評価との関連—— 名古屋大学教育学部紀要 教育心理学科, **40**, 99-125.
- House, J. S. (1981). *Work stress and social support*. Reading, MA: Addison-Wesley.
- 稲葉昭英 (1998). ソーシャル・サポートの理論モデル 松井豊・浦光博 (編) 人を支える心の科学 誠信書房 pp.152-175.
- 稲葉昭英・浦光博・南隆男 (1987). 「ソーシャル・サポート」研究の現状と課題 哲学 (慶應義塾大学), **85**, 109-149.
- 伊藤幸治 (1999). アレルギー性疾患の総論 杉本恒明・小俣政男 (総編集) 内科学 第7版 朝倉書店 pp.1145-1147.
- Johnson, R., Hobfoll, S. E., & Zalcberg-Linetzy, A. (1993). Social support knowledge and behavior and relational intimacy: A dyadic study. *Journal of Family Psychology*, **6**, 266-277.
- 周王慧 (1994). 在日中国系留学生に対するソーシャル・サポートの次元——必要とするサポート, 知覚されたサポート, 実行されたサポートの関係—— 社会心理学研究, **9**, 105-113.
- Kahn, R. L. & Antonucci, T. C. (1980). Convoys over the life course: Attachment, roles, and social support. In P. B. Baltes & O. G. Brim (Eds), *Life-Span Development and*

Behavior. Vol. 3. New York: Academic press. pp. 253-286.

神庭直子 (2007). 成人アトピー性皮膚炎患者におけるソーシャルサポートが主観的健康感に及ぼす影響 桜美林国際学論集 (桜美林大学), **12**, 2007.

神庭直子・池雅之・石川利江 (2007). 成人アトピー性皮膚炎患者におけるストレスと主観的健康感——通院患者・入院患者・一般成人の比較—— 日本健康心理学会第19回大会発表論文集, 126.

Kano, Y. & Harada, A. (2000). Stepwise variable selection in factor analysis. *Psychometrika*, **65**, 7-22.

柏倉栄子・田多英興 (2002). 病気の経過別にみたソーシャル・サポート ——クローン病とがん疾患を中心に—— 人間情報学研究 (東北学院大学人間情報学研究所), **7**, 41-52.

片岡葉子 (2002). アトピー性皮膚炎の QOL アレルギー, **51**, 210.

片岡葉子 (2004). アトピー性皮膚炎とストレスマネジメント アレルギー・免疫, **11**, 1062-1069.

片山富美代 (2009). 病気適応と病気認知に関する研究動向とその課題 ヒューマン・ケア研究, **10**, 40-52.

片山富美代・小玉正博・長田久雄 (2009). 日本語版病気認知質問紙の作成と信頼性・妥当性の検討—血液透析患者による検証 健康心理学研究, **22** (2), 28-39.

片山富美代・小玉正博・長田久雄 (2010). 血液透析患者の病気認知が病気適応に及ぼす影響 ヒューマン・ケア研究, **11**, 21-31.

川原健資・山本晴義・江花昭一・津久井要・佐々木篤代・加藤一郎・向井秀樹・熊野宏昭 (1997). 成人型アトピー性皮膚炎の心身医学的研究 (第1報) ——特に重症度・経過からみた心理学的特徴の検討—— 心身医学, **37**, 337-346.

川島眞・原田昭太郎・丹後俊郎 (2002). 掻痒の程度の新しい判定基準を用いた患者日誌の使用経験 臨床皮膚科, **56**, 692-697.

川島眞・宮地良樹・中川秀己・飯塚一・伊藤雅章・塩原哲夫・島田眞路・瀧川雅浩・竹原和彦・橋本公二・古江増隆 (2001). アトピー性皮膚炎の治療に対する患者の認識についてのアンケート調査 (第1報) 臨床皮膚科, **55**, 113-119.

Keyes, C. L. M., Shmotkin, D., & Ryff, C. D. (2002). Optimizing well-being: The Empirical encounter of two traditions. *Journal of Personality and Social Psychology*, **82**, 1007-1022.

- 菊島勝也 (2003). ソーシャル・サポートのネガティブな効果に関する研究 愛知教育大学
教育実践センター紀要, **6**, 239-245.
- 金外淑・嶋田洋徳・坂野雄二 (1998). 慢性疾患患者におけるソーシャルサポートとセルフ・エフィカシーの心理的ストレス軽減効果 心身医学, **38**, 317-323.
- Kodama, A., Horikawa, T., Suzuki, T., Ajiki, W., Takashima, T., Harada, S., and Ichihashi, M. (1999). Effect of stress on atopic dermatitis: Investigation in patients after the Great Hanshin Earthquake. *Journal of Allergy and Clinical Immunology*, **104**, 173-176.
- 小松さくら (2006). アトピー性皮膚炎の認知と家族機能との関連 ヒューマンサイエンス,
9, 67-74.
- 河野陽一 (2005). アトピー性皮膚炎の疫学とその動向 治療学, **39**, 1039-1042.
- 河野陽一・山本昇壯 (監) (2008). アトピー性皮膚炎治療ガイドライン 2008 厚生労働科学研究
- 久保千春・千田要一 (2005). アレルギー疾患の心理的側面の評価と治療 アレルギー, **54**,
1254-1259.
- 久保千春・溝部宏二・手嶋秀毅 (1994). 情動ストレスとアレルギー アレルギー, **43**, 311.
- 熊野道子 (2006). 生きがいとその類似概念の構造 健康心理学研究, **19** (1), 56-66.
- Martin, W. F. (1997) The relationship of negative stressors, social support, and coping to adolescent atopic dermatitis. *Dissertation Abstracts International: Section B: The Sciences and Engineering*, **58**(3-B), 1585. (Abstract)
- 松田志保 (2007). アトピー性皮膚炎患者の受療行動とセルフケアに関連する要因の検討——セルフ・エフィカシーの観点から—— 人間科学研究 (早稲田大学人間科学学術院),
20 (Supplement), 70.
- 松村真宏・三浦麻子 (2008). TTM: TinyTextMiner β version 2008 年 10 月 2 日
<<http://mtmr.jp/ttm/>> (2008 年 11 月 2 日)
- 三浦正江・嶋田洋徳・坂野雄二 (1995). 中学生におけるソーシャルサポートがコーピングの実行に及ぼす影響 ストレス科学研究, **10**, 13-24.
- 宮地良樹・生駒晃彦 (2006). かゆみ最前線 メディカルレビュー社
- 宮崎恵美・益子育代 (2006). 学校における思春期のアレルギー教育 (第二報) ——保健授業の一貫として導入したアレルギー教育の効果 日本健康教育学会誌, **14** (特別号),

106-107.

中村佳子・浦光博 (2000). ソーシャル・サポートと信頼との相互関連について——対人関係の継続性の視点から—— 社会心理学研究, **15**, 151-163.

日本皮膚科学会学術委員会 (1994). アトピー性皮膚炎の診断基準 日本皮膚科学会雑誌, **104**, 1210.

仁尾かおり・藤原千恵子 (2003). 先天性心疾患をもつ思春期の子どもの病気認知 小児保健研究, **62**, 544-551.

仁尾かおり・藤原千恵子 (2006). 先天性心疾患をもつ思春期にある人のレジリエンスの特徴 日本小児看護学会誌, **15** (2), 22-29.

似内紀子 (2000). アトピー性皮膚炎における悪循環モデルの検討——患者の認知を中心として—— 岩手大学大学院人文社会科学部研究紀要, No.8, 9-16.

大野道絵・坂本恵子・白石聡 (2002). 成人型アトピー性皮膚炎を持つ対象者の行動に関する研究——さがしもとめる—— 日本看護研究学会雑誌, **25**, 35-43.

奥田誠・松井美和子・濱田和彦・相生章博 (1999). 過密ストレスが皮膚バリアに及ぼす影響 細胞, **31**, 574-577.

奥野英美・上里一郎 (1999). アトピー性皮膚炎ストレス尺度の作成 日本カウンセリング学会第32回大会発表論文集, 207-208.

奥野英美・上里一郎 (2002). 成人アトピー性皮膚炎患者の心理的ストレス反応 健康心理学研究, **15** (2), 49-58.

Os-Medendorp, H. van, Eland-de Kok, P. C. M., Ros, W. J. G., Bruijnzeel-Koomen, C. A. F. M., & Grypdonck, M. (2007). The nursing programme 'Coping with itch': a promising intervention for patients with chronic pruritic skin diseases. *Journal of Clinical Nursing*, **16**, 1238-1246.

Os-Medendorp, H. van, Ros, W. J. G., Eland-de Kok, P. C. M., Kennedy, C., Thio, B. H., van der Schuur-van der Zande, A., Grypdonck, M. H. F., & Bruijnzeel-Koomen, C. A. F. M. (2007). Effectiveness of the nursing programme 'Coping with itch': a randomized controlled study in adults with chronic pruritic skin disease. *British Journal of Dermatology*, **156**, 1235-1244.

尾崎由佳・森陽子 (2007). 成人型アトピー性皮膚炎患者における Quality Of Life とソーシャル・サポートについて——心身症としてのアトピー性皮膚炎を考慮して—— 徳

- 島大学総合科学部人間科学研究, **15**, 117-132.
- 境玲子・相原道子・石和万美子・根岸晶・松倉節子・高橋一夫・木村博和・大西秀樹・山田和夫・小阪憲司・池澤善郎 (2004). アトピー性皮膚炎患者における POMS の活用 (第2報) ——縦断的研究—— 心身医学, **44**, 271-277.
- 坂野雄二 (2009). アトピー性皮膚炎への心身医学的アプローチ——認知行動的ストレスマネジメントの効用を考える—— 皮膚の科学, **8** (Suppl. 12), 617-624.
- 佐藤伸子・永尾真紀・永田憲行 (2001). アトピー性皮膚炎を有する児童・生徒に対する保健指導のあり方 熊本大学教育学部紀要 自然科学, **50**, 129-139.
- 佐藤由紀・渡辺ひとみ・佐藤富貴子・兵頭慶子 (2006). 成人型アトピー性皮膚炎患者の『思い』に関する研究 第37回日本看護学会論文集 成人看護Ⅱ, 41-43.
- Schwarzer, R. & Knoll, N. (2003). Positive Coping: Mastering Demands and Searching for Meaning. In S. J. Lopez & C. R. Snyder (Eds.), *Positive Psychological Assessment: A Handbook of Models and Measures*. Washington, DC: American Psychological Association. pp.393-409.
- 渋谷信治 (2000). アトピー性皮膚炎の否定的側面と肯定的側面に対する患者・家族の意識調査 心身医学, **40** (supplement), 193.
- 清水裕士・小杉考司 (2005). 第7章 テキストマイニングを用いた心理学分析の応用例——異性関係への印象の分析—— 藤井美和・小杉考司・李政元 (編著) (2005). 福祉・心理・看護のテキストマイニング入門 中央法規 pp.115-132.
- 高木修・山口智子 (1998). セルフヘルプグループの有効性——アトピー性皮膚炎患者におけるヘルパーセラピー原則—— 関西大学社会学部紀要, **30** (2), 1-22.
- 高田涼子 (2001). アトピー性皮膚炎患者の心理的特徴における一考察 人間科学研究, **9**, 127-139.
- 得田恵子・高間静子 (2004). 成人型アトピー性皮膚炎患者のディストレスに関する研究 ——ディストレスの概念枠組み—— 富山医科薬科大学看護学会誌, **5**, 69-80.
- 富家直明 (2004). アトピー疾患の自尊感情の向上を目指した集団認知行動療法の開発 コスメトロジー研究報告, **12**, 117-123.
- 富板美奈子・河野陽一 (2008). アトピー性皮膚炎の最近の疫学 アレルギーの臨床, **28**, 1109-1115.
- 富岡玖夫・鏡味勝 (1999). アレルギー疾患の治療 杉本恒明・小俣政男 (総編集) 内科

- 学 第7版 朝倉書店 pp.1150-1155.
- 友野隆成・橋本幸 (2002). あいまいさへの非寛容がストレス事象の認知的評価及びコピーングに与える影響 性格心理学研究, **11**, 24-34.
- 筒井順子 (2009). アトピー性皮膚炎患者を対象とした集団心理療法の開発と普及における課題——予備研究の結果から—— 皮膚の科学, **8** (Suppl. 12), 654-659.
- Tsutsui, J., Miyoshi, H., Yoshii, K., Hashiro, M., Kanzaki, T., Nozoe, S., & Naruo, T. (2003). Validation of the Japanese version of the itch-related cognition questionnaire for atopic dermatitis. *Dermatology and Psychosomatics*, **4**, 21-26.
- 内小保理・内博史・小河祥子・權藤知聡・師井洋一・古江増隆・樗木晶子 (2010). 九州大学病院皮膚科におけるアトピー性皮膚炎初診患者の QOL に対する検討——Skindex-16, DLQI を用いて—— 日本皮膚科学会雑誌, **120**, 45-54.
- 浦光博 (1998). 援助とソーシャル・サポートの研究概略 松井豊・浦光博 (編) 人を支える心の科学 誠信書房 pp.2-17.
- 浦光博・南隆男・稲葉昭英 (1989). ソーシャル・サポート研究——研究の新しい流れと将来の展望—— 社会心理学研究, **4**, 78-90.
- Vaux, A. (1988). *Social support: Theory, research, and intervention*. New York: Praeger.
- 和田幸子 (2008). アトピー性皮膚炎患者のつらさの体験プロセス——修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチによるインタビュー分析から—— 大正大学大学院研究論集, **32**, 372-386.
- Wittkowski, A., Richards, H. L., Griffiths, C. E. M., & Main, C. (2004). The impact of psychological and clinical factors on quality of life in individuals with atopic dermatitis. *Journal of Psychosomatic Research*, **57**, 195-200.
- Wittkowski, A., Richards, H. L., Griffiths, C. E. M., & Main, C.J. (2007). Illness perception in individuals with atopic dermatitis. *Psychology, Health & Medicine*, **12**, 433-444.
- Wittkowski, A., Richards, H. L., Williams, J., & Main, C.J. (2008). Factor analysis of the Revised Illness perception Questionnaire in adults with atopic dermatitis. *Psychology, Health & Medicine*, **13**, 346-359.
- 余語琢磨 (2003). 「アトピー」をめぐる病の語り ——インターネット上にみる病者の苦悩と戦術—— 自治医科大学看護学部紀要, **1**, 41-54.